

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和 3年 2月 25日

事業所名 Roselle Association CLUB III

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7		三密にならないよう配慮し、園庭(駐車場)や二階のプレイルームを活用している。	
	2	職員の配置数は適切である	7		適切な配置をしている。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7		スロープなどを利用してバリアフリーが出来るよう留意している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7		各部屋で利用の用途を分け、心地よい空間づくりを行っている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7		職員面談や業務会議などを行い、改善している。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7		毎年アンケートを実地している。また、行事ごとにもアンケートを取り、改善につなげている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7		公開している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	3		
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7		月2回以上行っている。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7		実地している。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7		えいぶるを活用している。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7		児童の発達支援や家族のニーズなども個別支援計画書へ記載している。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7		支援会議や、毎朝のブリーフィングで支援の共有を図っている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	7		毎月、支援会議(中間評価)を行っている。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7		月の行事や毎日のプログラム等がその都度児童の様子や興味関心に沿った内容になるように、会議を行い、決定している。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	7		1人1人に合わせた計画を作成している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7		毎朝ブリーフィングを行っている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	2	不在スタッフもいるため、書面と毎朝のブリーフィングにて申し送りをしている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7		記録は、二種類行っており、活動日誌と児童の様子についての日誌を記載している。	
	20	定期的モニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7		6か月以内に一回モニタリングを行い見直しをしている。	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7		管理者・児発管(補佐)が会議に参加している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	2	5		コロナ禍の為、会議なども少ないため、今度電話などで連携を深めたい。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	1	6		医療ケアのお子様がおらず。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	2	5		医療ケアのお子様がおらず。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7		児発管を中心に行っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7		児発管を中心に行っている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	3	研修等に参加している。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	2	5	地域の公園などで、地域の児童と交流を持っている。	コロナ禍の為、児童館などのイベントに参加できていない。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	2	5		コロナ禍の為、参加できていない。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7		送迎時に申し送りを行い、特記事項は児発管が電話にて連絡している。	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	4	3	個別支援計画書にて、保護者へ向けのプログラムを記載しているご家庭がある。		
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7		契約時に行っている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7		その都度対応している。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	3		年に一回保護者会を行っているが、今年度はコロナ禍の為行えず。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7		苦情なし。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7		事業所だより等を発行している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	7			
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	5		コロナ禍の為開催できていない。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7		その都度、必要に応じて周知している。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7		年に二回以上行っている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	7		児童の保護者と連携し、確認している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	3	医師からの指示書を保護者から引き継ぎ対応している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7		ヒヤリハットなどは、所内でその都度共有をしている。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7		法人で研修会を行っている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6	1	身体拘束が必要となる以前に支援の改善を図っている。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

事業所名 Roselle association CULB III

保護者等数(児童数) 1名

回収数 1名

割合 100%

	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されている	1					
	2 職員の配置数や専門性は適切である	1					
	3 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	1					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	1					
適切な支援 の提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されている	1					
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	1					
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	1					
	8 活動プログラムが固定化しないよう工夫されている	1					
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	1					
適切な支援 の提供	10 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされた	1					
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされた	1					
	12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニングiv等)が行われている	1					
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	1					
	14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われている	1					
	15 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されている	1					
	16 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されている	1					
17 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされている	1						

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されている	1					
	19	個人情報の取扱いに十分注意されている	1					
非常時等の 対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されている。また、発生を想定した訓練が実施されている	1					
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われている	1					
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしている	1					
	23	事業所の支援に満足している	1					

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。